

活動テーマ

未来へつなぐ魅力ある郷育の開発

横瀬町全域地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

昨年度の横瀬町における活動を通して、「系統のかつ継続的な企画の実施」、「若者の滞留を促す居場所づくり」、「教育の魅力化と人づくり」が課題としてあがった。

そこで今年度は、児童教育学科の強みを生かしながら計画的かつ継続的に人々の交流を促すことと、主に小学生を対象とした人づくりに貢献することを目的として実施した。そして、活動の目標を次の4つに設定した。

- ① 交流イベント等をきっかけとして地域住民と大学生が積極的に話し合いや協働作業を重ね、地域の活気を取り戻す。
- ② 横瀬町にある農産物や観光に関する資源を大学生の視点で掘り起こし若者風のアレンジを加えて新たな魅力とする。
- ③ 農業支援活動を通して、地域の農家の作業負担を軽減するとともに、大学生自身の横瀬町に対する理解を深める。
- ④ 子供たちが、大学生や他地域の子供たちとの交流を通して、地域の魅力について自信をもって表現できるとともに、ふるさとに対する愛着を深める。

2 活動地域の現状

横瀬町は、「日本一チャレンジする町」をモットーに掲げ、様々な試みに文字通りチャレンジし、着実に成果をあげつつある。課題である人口減少が数値的に抑制傾向に転じたほか、メディアやSNSを介した知名度アップ、大手住宅情報メディアの「住み続けたい街」のランクインなど、街の印象が近年飛躍的に向上している。

3 活動内容

具体的な活動は、次の①～③に分類される。

- ① 地域住民との交流活動
チャレンジキッチン ENgaWA の交流イベントにおける食品等の販売と子供向けの遊び・学習ブースを展開した。
- ② 横瀬小学校の児童によるオンライン交流会
横瀬小学校4年生の授業「総合的な学習の時間」を支援し、地域に関する調べ学習の成果を島根県海士町の福井小学校児童に対しオンラインで発表した。
- ③ 農業支援活動
横瀬町の農家のことや実際の農作業のことをほとんど知らない学生たちの理解を深め、体験を通して町が抱える課題を知るとともに、ぶどう畑の下草刈、枝の剪定、収穫等や獣害防止対策のお手伝いをした。

4 成果

- ① スコーンの販売や国際理解ゲーム等を通じて人々の交流が深められた。

横瀬町の農産物（お茶、胡桃、はちみつ、キウイフルーツ、イチゴ）を使ったスコーンとチーズケーキを開発して販売した。スコーンは、学生の発案による名称「ヨコスコ」で売り出し、年間を通じて3回（6月、11月、1月）出品し、来訪者にアピールすることで、町民の方々にも覚えていただくことができた。



- ② オンライン交流会に参加した子供たちが「ワクワク」を体験できた。

横瀬小学校4年生「総合的な学習の時間」の授業の一部として、町の魅力を調べて発表したり質疑応答したりする活動を島根県の福井小学校と交互に3回実施した。武甲山や氷柱、果樹園などを班ごとにスライドを使いながら発表した。児童からは、遠く離れた小学校の様子がわかって楽しく勉強することができた等の感想が寄せられた。



- ③ 農業支援体験により学生の農業理解が深まり、町の役にも立てた。

学生が横瀬町の農業に対する理解を深めるとともに、地域における農業の重要性や難しさに気づくきっかけとなった。また、小学校教師を目指している学生たちには、学校の教科指導においても役立つ知識などを得ることができた。



5 課題

- ① 若者（大学生）の滞留を促進する必要がある。

地域の魅力化・活性化における若者の貢献は大きいと考えるため、現在町内で活動している大学生が集まりワイワイガヤガヤしながら交流する居場所づくりが重要である。

- ② 横瀬町の農産物に関する情報発信を推進する。

大学生が開発したスイーツやドリンク等を含め、農産物を一元的に発信し更なるイメージアップが重要である。

- ③ 将来を担う子供たちの教育を更に魅力化する。

長期的な展望を持って地域活性化を推進していくために、地域の将来の担い手である子供たちに対する地域教育を一層充実していくことが重要である。

6 次年度以降の計画

これまで2年間の実績を更に向上させるべく、横瀬町関係者の意見を伺いながら大学生としての行動力を発揮していきたい。主要なテーマは、自分たちの活動の情報発信とグローバル×ローカルの視点に立った地域教育の開発である。